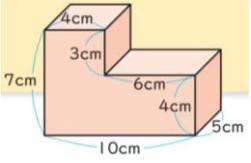


日 時：令和6年6月21日
場 所：5年1組教室 (TT)
授業者：

- 1 単元名「体積」
- 2 本時について

- (1) 本時のねらい：複合図形の体積を求める活動を通して、直方体に分割して足したり、欠損部分をひいたりする等、既習した図形に直して計算すればよいことに気づき、複合図形の体積の求め方を説明することができる。
- (2) 本時の展開 (4 / 10)

段階	主な学習活動と発言	研究の具体的方途
<p>つかむ</p> <p>考えをもつ</p> <p>考えを深める</p> <p>考えを確実にする</p>	<p>1 問題をつかむ。</p> <p>右のような立体の体積を求めましょう。</p>  <p>2 課題づくりをする。</p> <p>L字の立体の体積の求め方を考えよう。</p> <p>3 自分の考えをもつ。</p> <p>〔部分+部分〕L字の立体を縦に分割する。</p> <p>⑦はじめにここで二つの直方体に分けます。次に、それぞれの直方体の体積を求めます。最後に、2つの直方体の体積を合わせて、答えを出します。</p> $5 \times 4 \times 7 + 5 \times 6 \times 4 = 260 \quad A 260 \text{ cm}^3$ <p>〔部分+部分〕L字の立体を横に分割する。</p> <p>⑧はじめにここで二つの直方体に分けます。次に、それぞれの直方体の体積を求めます。最後に、2つの直方体の体積を合わせて、答えを出します。</p> $5 \times 4 \times 3 + 5 \times 10 \times 4 = 260 \quad A 260 \text{ cm}^3$ <p>〔全体-部分〕L字の立体の欠損部分を引く。</p> <p>⑨はじめにここに線があったとして、大きい直方体の体積を求めます。次に全体から欠けている部分の直方体の体積を求めます。最後に、全体から部分を引いて、答えを出します。 $5 \times 10 \times 7 - 5 \times 6 \times 3 = 260 \quad A 260 \text{ cm}^3$</p> <p>4 考えを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3人でのグループ交流を行い、考えの説明を聴き合う。別の切り方があることや、引く方法があることに気付く。 ・全体交流で、考え方や答えを確かにする。 <p>5 たしかめ問題をする。</p> <p>6 まとめをする。</p> <p>分けてから合わせたり、全体から引いたりして、知っている図形に直して計算すれば体積を求めることができる。</p> <p>7 評価問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書のフラッグ問題やティーチャー問題に取り組む。 	<p>・前時の振り返りを行うことで、体積の公式を想起させる。</p> <p>【研究内容1-②】</p> <p>問題解決のための手立ての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントコーナーの設置 <p>自分の考えをもつ場面では、ヒントコーナーを設置する。立体の体積を平面で考えることに苦手意識のある児童は、ヒントコーナーにある立体模型を操作することで、たて、横、高さの長さを正確につかむことができるようにする。本時では、TT形態を最大限活用し、T1は机間指導、T2はヒントコーナー指導とし、どの児童も自分の考えに自信をもてるようにする。</p> <p>【研究内容2-③】</p> <p>伝え合う活動を充実させるための手立ての工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを分かりやすく説明したり、互いに伝え合ったりするためのキーワードの明確化 <p>考えを交流する場面では、21人の学級をあまりなく割った3人グループでの交流を位置付ける。その交流で、自分の考えをより確かに伝え合うために、キーワードを明確化する。キーワードとして、「直方体の体積」「分ける」「合わせる」「引く」を板書に位置付け、活用して話せるようにする。また、普段の授業から、「はじめに」「次に」「最後に」という接続語を使えるようにしておく。</p> <p>＜評価規準＞</p> <p>直方体に分割したり、欠損部分を引いたりして、複合図形の体積の求め方説明している。【思考・判断・表現】</p> <p>＜ノート＞</p> <p>キーワードを使って言葉と式で、体積の求め方をノートに書いている。</p> <p>A：考え2つ以上 B：考え1つ</p>